

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科) (2019.12) 令和元年度:9-10.

外来通院を行う女性オストメイトの日常生活の工夫

猪飼 菜都美, 木村 優花, 宮本 裕菜

外来通院を行う女性オストメイトの日常生活の工夫

猪飼菜都美 木村優花 宮本裕菜
(指導：山田咲恵)

緒言

現在、日本には消化管を人為的に体外に誘導して造設した開放口（以下、ストーマ）をもつオストメイトは約18万人いる。¹⁾

ストーマを造設することで疾患が完治し、社会復帰をすることが可能になってもストーマがあることを受け入れられず、自らがオストメイトであることが自尊心を低下させ、生活の質の低下にもつながると考えられる。しかし、女性オストメイトに限定する論文はほとんどない。²⁾女性オストメイトの日常生活の工夫を分析することで、様々な苦悩を抱えている女性オストメイトに情報提供や支援を行うことが出ると考え、本研究のテーマとした。

【研究目的・意義】

外来通院を行う女性オストメイトの日常生活の工夫を調査することで、同様の悩みを持つ女性オストメイトに情報提供や支援をするため。

【用語の定義】

・ストーマ…消化管を人為的に体外に誘導して造設した開放口³⁾
・オストメイト…ストーマを造設した人⁴⁾
・日常生活…「日常」「生活」を広辞苑 第7版を参考にし、本研究では日常生活を「毎日繰り返される生活」と定義する。⁵⁾
・工夫…いろいろ考えて良い方法を得ようとする。また、考えついた方法。

方法

【研究の種類・デザイン】質的看護研究

【研究対象】

以下の条件を満たす研究対象者を外来看護部長からの紹介を受け、研究対象とした。

- ①旭川市で外来通院を行っており、ストーマ造設からおおむね10年程度経過している女性のオストメイト⁶⁾⁷⁾
- ②認知症がなく健康状態が安定しており、身体的・精神的に不調がない人

【調査方法】

2019年8～10月の期間に病院のプライバシーの保てる個室にて研究責任者同席のもと、アンケート・半構成的面接を行った。面接内容は研究対象者の許可を得てICレコーダーに録音した。

【調査項目】

個人特性調査内容は、研究対象者の年齢、ストーマ造設の原因疾患、ストーマ造設時の年齢、結婚の有無、配偶者の有無、子供の有無、職業についてである。半構成的面接の面接内容としては、(1)今、ストーマについてどう思うか(2)ストーマケアで困難に感じたこと(3)それに対してどのように工夫、改善、配慮を行っているかの3つとした。

【データの分析方法】

録音内容から逐語録を作成した。逐語録から対象者の日常生活の工夫に関する内容について文脈の意味を損なわないようコード化し、内容の類似性・相似性を考え、抽象化し、サブカテゴリー、カテゴリーを生成した。

【倫理的配慮】

対象者への研究の趣旨および本研究への参加は自由であり、拒否・中断が可能であること、拒否・中断による不利益はないこと、プライバシーの保護を保証することを文書ならび口頭で説明した。また、旭川医科大学倫理委員会の承認を受けた後実施した。(承認番号:19023)

結果

対象者は30代1名と60代1名であった。分析の結果、10カテゴリー、41サブカテゴリーが生成された(表1)。以下、カテゴリーを【 】で示す。

表1 外来通院を行う女性オストメイトの日常生活の工夫

1. よりよく生活するための情報収集・制度の活用
・オストメイト・ストーマに関する会報誌をとって情報収集を行い、その情報を活用 ・社会的な制度(身障者手帳・助成金)やヘルプマークを活用
2. ストーマ造設後の生活を良好に送るための体調管理
・ストーマを造設したことで脱水症状を起こしやすいことを理解し、水分補給や症状が出た際には早めの通院 ・体型が大きく変化しないように注意 ・自分が入院することで子どもが困るため、入院のない生活を送ることができるような体調管理 ・物事の前に必要物品や服装の仮説を立ててから行動
3. 体調に配慮した食事の選び方
・1日3食を基本に体調に合わせておかゆやエンシュアを選択 ・栄養指導を受け、排ガス・匂いの少ない食べ物を選択
4. 外出(旅行・温泉など)を楽しむための他者への配慮や資源の活用
・常時、ストーマの装具(必要物品)を携帯する ・便が漏れた場合は100均で必要物品を購入し応急処置を行う ・雪が降っていない時は時間的余裕をもつために車で通院するが天候や交通手段(JR)を調整しながら通院 ・更衣や身体を洗う際には入浴者の目にパウチやストーマが触れないようにする ・プールや温泉に入る際は保護テープの使用やタオルを使って目隠しをする ・脱衣所を水滴で濡らさないように、最後のかけ湯時にパウチに貼っていたテープを剥がす ・トイレが混んでいる時はストーマケアなどに時間がかかるため、身障者トイレを利用 ・匂いのケアとして消臭剤を交換前にパウチに吹きかけたり、消臭剤を携帯する ・ストーマを下手に隠すのではなく、第一印象で分からないように衣服やタオルを活用する
5. 家族計画や家族からの協力・理解を得るための理解度に合わせた説明
・パートナー(夫)や子にストーマについて説明し、体調やストーマの保護などに時間がかかることへの理解を得る

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体調や妊娠・出産に関わるリスクを考慮しながら、子づくりについて考えた ・トイレを自宅に2つ作り、自分が使用していても家族が利用できるようにした
6. 社会的な交流を良好に保つために理解と協力を求める
<ul style="list-style-type: none"> ・友人にストーマのことを説明し、トイレに時間がかかることの理解を得る ・子の幼稚園・保育園の先生などにもストーマについて説明し、自分が参加できそうな行事に参加・協力
7. ストーマや便の漏れなどに注意しながらも子と過ごす時間を楽しむ
<ul style="list-style-type: none"> ・子と2人の時は息子の様子をみながら自分のケアを行うため身障者トイレを利用 ・ストーマの造設位置(右)を考慮して 子は左側で抱く ・子と遊ぶ際には跳んだり走ってもいいようにパウチ内を空にする
8. 積み重ねてきた経験をもとにした丁寧なストーマケア
<ul style="list-style-type: none"> ・経験や生活の中での発見を活かしてストーマケアを実施 ・装具の交換はゴミの日や装具・ストーマの状態をみて実施 ・装具の交換は自宅の風呂場で実施 ・身障者用トイレではなく普通の洋式トイレでも 排泄物を上手に流すなど工夫しながら臨機応変に利用 ・装具は素材や匂い、値段などを考慮して選択 ・便性状やストーマ周辺の皮膚感覚なども含めて体調をみる ・便がパウチ下方に落ちていくように重力や潤滑剤を利用し、パウチが衣服による圧迫を受けないようにする ・処理しやすい便の硬さになるように調整
9. 便の排出や見た目を考慮しながらもお洒落を楽しむ
<ul style="list-style-type: none"> ・便が下に落ちやすく 見た目にひびかないように、衣類はマタニティー用や丈が長めのものを着用 ・パウチを圧迫させないようにズボンのファスナーの開閉やベルトの位置などを調整 ・オストメイト用の腹巻きを自分で穴を開けるなどして着用 ・タオルを活用し ストーマのせり出ている部分と腹部の高さを合わせることで着物を着る
10. ストーマに対して愛着を持ち 前向きな考え方・気持ちを持って接する
<ul style="list-style-type: none"> ・ストーマは生活していくうえで必要不可欠なものとする ・ストーマを自分の身体の一部として受け入れる ・普通の人に見えるように配慮しており、自分自身でも排泄口が人と違うだけだと考えている ・ストーマを擬人化し、愛着を持って世話や観察を行う

考察

1. ストーマに対する前向きな捉え方

語りの中にはストーマに対するネガティブな表現が少なかったため、カテゴリー・サブカテゴリーではポジティブな表現が多くなっている。これは、ストーマの造設当初は悩みであったことも、10年の間の試行錯誤によって、様々な気付きが経験として蓄積され、日常生活の工夫となったためだと考えられる。また、ストーマを造設したからといって自身の存在を否定することはなく、病気による苦しみや不安が軽減され、より、自分らしい生活を送ることに繋がっていると上記のカテゴリー・サブカテゴリーから考えられる。

2. ストーマとともに、自分らしく生きる

研究対象者らは、ストーマ造設後も女性のライフイベントである結婚・出産・子育てなどを経験し、仕事もしていた。研究当初、ストーマの造設は女性のライフイベントを経験する上で大きな困難をもたらすのではないかと考えていた。たしかに、ストーマを造設したことでストーマのお世話しながら子育てを行うこととなるため、より周囲の理解・協

力やストーマへの注意が必要となっていた。しかし、【5. 家族計画や家族からの協力・理解を得るための理解度に合わせた説明】【6. 社会的な交流を良好に保つために理解と協力を求める】で示したように丁寧な説明や細やかな配慮を行うことで、家族や周囲の人の理解・協力を得ることに繋がり、生活を充実させることができていると考える。

さらに、ストーマの造設により原因疾患の悪化を防ぐことができ、病气中心の生活ではなく家族と過ごす時間を楽しむことができるなど、自分らしく自由な生活を送ることができていると考える。

3. 人生を楽しむために行う日常生活の工夫

【4. 外出(旅行・温泉など)を楽しむための他者への配慮や資源の活用】では、ストーマがあるから外出を控えるような生活を送るのではなく、保護テープの活用や他者への配慮を行うことで外出を楽しんでいることが明らかとなった。人生の楽しみや自分のやってみたくことへの挑戦を行うことが、自信や次の楽しみへと繋がっていると考えられる。

また、研究対象者2名ともストーマや装具による制限がありながらも、自分なりに工夫しながら衣服を選択していた。実際にインタビューの時にお会いすると、オストメイトであることがわからないほどお洒落を楽しんでおり、「普通の人に見えるように」配慮していることがわかった。さらに、オストメイト用の腹巻きを使用する際には、ストーマの状態に合わせて穴を開けていた。このように、個別性を高めることによりケアのしやすさが向上すると考えられる。

以上より、衣服はストーマを隠すためのものとしてではなく、自分の生活をより活気ある 楽しいものとするための手段として活用することができていると考える。また、自分のライフスタイルやストーマに合わせた日常生活の工夫を行うことで生活の質を向上させ、人生を楽しむことができていると考える。

4. 研究の限界

本研究では対象者が2名と少なく異なる疾患であったため、今後は対象者の人数や疾患を限定して研究を行っていく必要があると考える。

謝辞

本研究にご協力いただいた対象者の方々、病院関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) がんサポート。がんと生きるすべての人を応援します。、<https://gansupport.jp/>(閲覧日：2019年4月15日)。
- 2) 高橋廣成 他(2018)：退院後のオストメイトが抱える入浴に対する思い、日本看護学会論文集慢性期看護、48、275-278。
- 3) 向井直人 編(2018)：はじめてでもやさしい ストーマ・排泄ケア 基礎知識とケアの実践、3、学研メディカル秀潤社。
- 4) 井部俊子, 箕輪良行 監修(2017)：図解 看護・医学事典, 第8版, 112, 医学書院。
- 5) 新村出 編(2018)：広辞苑 第7版, 岩波書店。
- 6) 石原レイ子(2012)：人工肛門保有者のサポートの検討, 関西医療大学紀要, 6, 33-38。
- 7) 政岡 敦子, 大森 美津子, 西村 美穂(2015)：ストーマを造設した患者のボディ・イメージに関する文献検討, 香川大学看護学雑誌, 19(1), 45-52。